

## 平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

## 実施団体名

京都市

## 事業名称

京都デザイン活用プロジェクト

## 1. 事業実施概要

主に和装製品への利用に限られていた京都の伝統あるデザインについて、ICTを活用することにより、国内外を問わず幅広い産業製品全般への利用が可能となる仕組みを構築し、京都の地域経済活性化と伝統あるデザイン文化の振興を図る。

## 2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
職人・企業登録数	200	160	△	サーバのデータベース確認
システムを利用した売上高	250万円	142万円	△	・プリントシール機設置会社からの報告(21年9月～22年2月までの6箇月)。22年3月の収益見込みを考慮すると目標値の60%は達成する見込み ・京都市及び協議会としての収益ではない。
システムを利用した売上高(補正分)	50万円	0	×	サーバのログ確認

## 3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

## ○職人・企業登録数

…システム開発(コラボレーション機能)が年度末になってしまったため、本システムの周知が十分でなく、登録数が伸びなかった。22年度は、市内の企業団体に対して登録依頼を行うなど、登録者拡大への取組を強化する。

## ○システムを利用した売上高

…商品開発がプリントシール機の1点に留まり、目標値までの収益をあげられなかった。22年度は21年度に実施した学生コンペティションの優秀作品の活用などを行い、商品開発を促進する。

## ○システムを利用した売上高(補正分)

…システム開発(スマートデバイス(iPhone)対応)が年度末になってしまったため、開発は終了したが販売にまでは至らなかった。22年4月中には販売を開始する予定である。

## <委託業務説明書>

### 1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

#### ○ユーザーの属性に対応したシステム構築（ユーザーシナリオの設定）

… 20年度の開発において、プロダクトデザイナー、一般消費者など、本システム利用者の属性の違いにより、求める機能が異なるため、それぞれのニーズにできる限り対応したシステム構築等を図る必要がある事が、課題として明らかになった。

それら属性毎のニーズをより明確にするためには、属性毎のシステム利用シナリオ（ユーザーシナリオ）をグルーピングと言った、広い視点での検証だけでなく、一個人の視点にまで絞ったピンポイントなニーズの吸い上げを、ヒアリング等を通じて検討し、それに対応した機能・画面の設計を行い、視点を広げていく事が必要である。

21年度においては、システムの利用が想定されるプロダクトデザイナーの利便性を向上させるため、一部図案のシリーズ化（「吉祥図案」シリーズなど）や、「和」の色見本帳の整備などの対策を実施した。

### 2 自律的・継続的運営の見込み

コラボレーション機能の構築による利便性の向上、スマートフォンをはじめとした新しいデバイスへの対応を行うことにより、デザイン利用者の増加、デザイン販売収益の拡大を図り、自律的・継続的な事業運営を目指す。

### 3 今後の展開方針

平成22年度以降は、平成21年度に構築を完了したシステムの本格運用を開始し、本事業を自走化可能なビジネスモデルとして確立するため、以下の取組を行う予定である。

#### (1) 製品開発における企業間コラボレーション支援

コラボレーション機能への一般企業及び伝統産業関連事業者の登録数の拡大や、平成21年度に実施した学生コンペティションの優秀作品の活用などを行い、異業種間の製品開発を進める。

#### (2) リアルビジネスとの連携

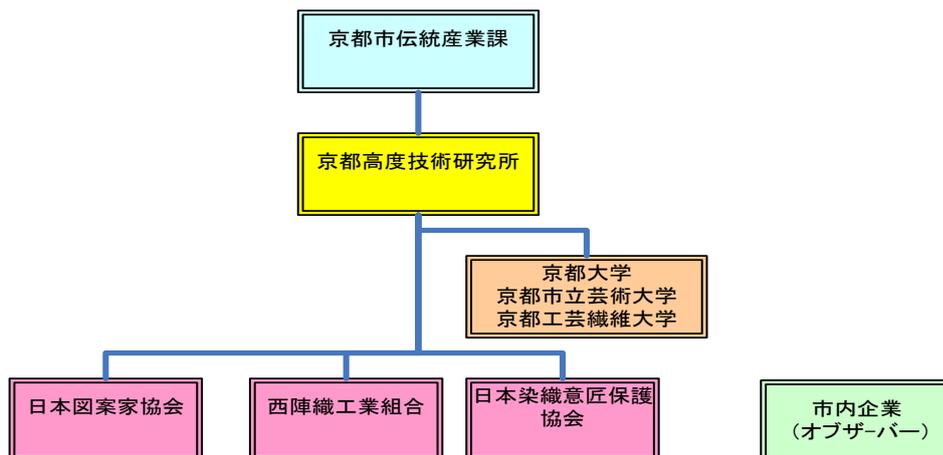
本システムを通じた画像販売を継続するほか、画像素材の販売企業等に画像販売の委託を行い、販路の拡大及びプロジェクトの収益確保を図る。

#### (3) 本システムや開発製品を認知させるためのプロモーション

本システムや開発製品を認知させるため、システム上をはじめ、様々な媒体や機会を利用した積極的なプロモーションを実施する。

## <実施体制説明書>

## 1 実施体制



## 2 各主体の役割

NO	氏名・団体名	役割
1	京都市	本事業における実施主体
2	財団法人京都高度技術研究所	①システム設計・開発 ②システム運用 ③自走後、事業を引き継ぎ、事業展開を図る。
3	社団法人日本図案家協会	①デザイン提供 ②デザインの拡販展開
4	西陣織工業組合	①デザイン提供
5	NPO日本染織意匠保護協会	①デザイン提供
6	京都大学	①システム構築における最新技術提供 ②著作権保護のためのICTの仕組みについての助言
7	京都市立芸術大学	①デザイン活用方法に関する助言 ②実験協力
8	京都工芸繊維大学	①デザイン活用方法に関する助言 ②実験協力
9	市内企業	デザインを用いた製品化、製品化に当たっての助言 ・株式会社アーテファクトリー（素材画像販売・製品開発会社） ・株式会社小堀（仏壇・仏具製造小売）など

## 事業実施進行表

実施内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22 1月	2月	3月
協議会等開催							△					△
システム構成の 検討・決定	→											
システム設計	→											
システム構築								→				
システム稼働												→
報告書作成												→

## その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[1] <http://www.kyotodesign.jp> [プロジェクトポータルサイト]

[2] <http://www.kyotodesign.jp/sd/> [スマートデバイス (iPhone) 対応ポータルサイト]

## 平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：京都市

事業名称：京都デザイン活用プロジェクト

## 1 概要

平成20年度に構築したシステムについて、以下の追加機能の開発を行った。

- (1) 販売されたデザインの利用状況について管理する機能を追加するなど、今後のデザイン利用を想定したデータベースの拡充を行った。
- (2) 海外へのデザイン販売に対応するため、デザインメタデータの英語対応を行ったほか、よりキーワード検索の精度が高くなるよう、既存メタデータの追加及び修正を行った。
- (3) 類似するデザインを検索する機能を強化するため、「和」の色分類を網羅した色見本を整備した。
- (4) デザインを活用した商品企画を持つ一般企業、伝統産業関連事業者、デザイナー（図案家）のコラボレーション活動を支援するため、SNSをベースとしたコラボレーション機能を構築した。
- (5) アーカイブされたデザインについて、より多くの人に興味を持ってもらえるようにするため、コンテンツのシリーズ化（「吉祥図案シリーズ」等）や、ストーリー化（フラッシュムービーの導入等）などを行ったほか、利用者の取扱いを便利にするために試験データとしてベクターデータも新規に追加した。
- (6) 「京都デザイン活用プロジェクト」アーカイブ・システムの持つ各種検索機能をスマートデバイス（iPhone）から呼び出すための機能を構築した。

## 2 運用結果

- ・コラボレーション機能における一般企業、伝統産業関連事業者登録数：160（目標 200）
- ・システムを利用した売上高：142万（目標 250万円）

## 3 課題・改修の必要性

収益方法の多様化を図るため、以下のような課題について、システムの改修を含めて検討していく必要がある。

- ・現在の「デザインの利用者から課金するシステム」だけでなく、デザインの掲載者から掲載料を課金するシステムの構築
- ・現在の「デザインを1回利用するごとに課金するシステム」だけでなく、「月会費〇円で〇枚の画像が毎月使用可能」といった有料会員システムの構築

## 4 その他

なし